

位置図



現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- JR アンダーパスで制限高 3.1mのため、建設機械の進入が困難である
- リバーパーク側からのアクセスも可能であるが、幅員狭小である
- 人家裏のスペースがなく、建設機械の作業ヤード確保が困難である
- 地元から、斜面上部に仮設道路設置要望があるが、急峻で地形改変が大きい
-
-

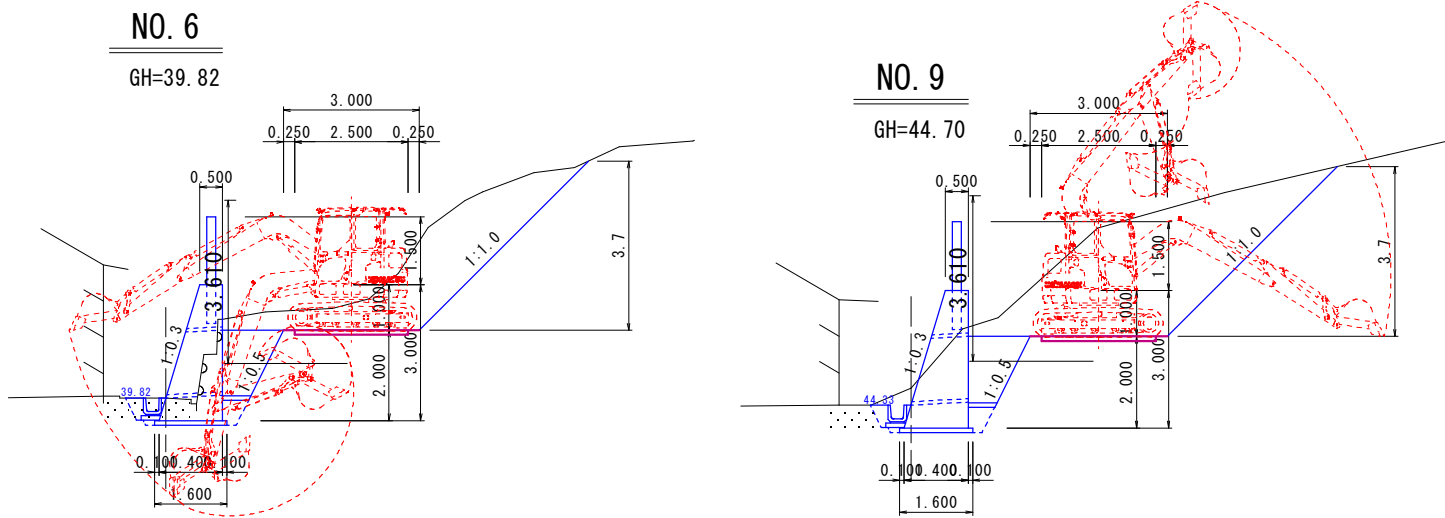
設計条件

- 待受け式重力式擁壁 H=2.5~3.5m 延長 L=120m
- 落石防護柵 H=1.5m 延長 L=120m
- 排水路工 擁壁前面 L=120m および流末排水
- 仮設防護柵 L=100m

平面図



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

- 工事用道路を山側に計画しているが、床堀は重機が届かないため、宅地側(擁壁背面)に計画すること。
→ 擁壁背後の裏込材天端を施工基面とし、ここに工事用道路を計画する。(地元調整が必要)
- 起点側工区の施工には、別途市道から工事用道路を計画することが望ましい。
→ 起点側の市道から NO.1 付近までの盛土斜路工(工事用道路)を計画する。
- JR アンダーパスの手前から、バックホウ 0.28m3 は自走で進入すること。
→ トレーラーは国道 326 号から市道へ進入し、重機を荷下ろしする。(自走距離は約 500m)

○確認事項

- 工事用道路設置に伴う用地の提供が必要なため、地元の承諾が必要である。
→ 起点側は借地契約が可能か地元と協議。擁壁背後地は用地取得範囲が広がるため地元と協議。
- 現場条件に適した建設機械は以下の通りである。
→ ポンプ車 2~4t、ダンプトラック 4t、トレーラー10t、バックホウ 0.28m3(クレーン作業含む)